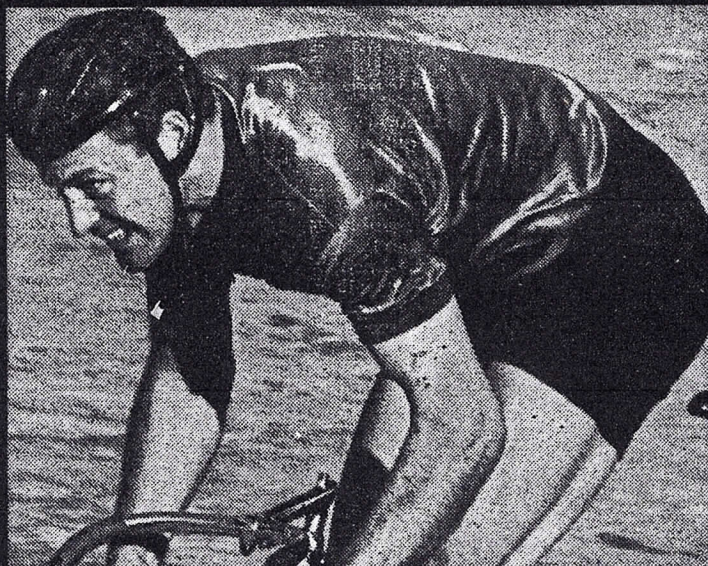


'74 CHAMPION DE MONDE PROFESSIONAL DE VITESSE PEDER PEDERSEN



PEDER PEDERSEN

74年度世界選手権は、モンテリオールで開催された。今回特に変動を見せたのはスプリント種目で、アマチュアもプロもトップの座が変わった。

アマチュア部門では常勝のモルロンがソビエトのクラツォフに敗退してしまった。それは準々決勝での結果だから、モルロンの成績はベスト8に止どまった事になる。

クラツォフは200メートルを10秒6ぐらいであがれる現代のトップレベルにあるスプリンターだが、ドカンと一発かかれば勝てるというような単純な競争ではないので、彼は決勝までいきながら、チェコスロバキアのアントン・トカシュに敗れ去った。

第1回戦 トカシュ 11秒84

第2回戦 クラツォフ 11秒15

第3回戦 トカシュ 11秒32

アマチュアの参加者は、55名にのぼった。

日本代表3選手は8分の1決勝(20位以内)に駒を進め得ず終ってしまった。彼らの実力通りの成績であり経験のない競技場(一周285~286m、カント48°)だった事を加味すると、3名で2勝出来たのは出来すぎているかも知れない。

プロフェッショナル部門では、オーストラリアのニコルソン(昨年度アマ2位)とデンマークのペテルセン(昨年度アマ4位)という強力な新人がデビューした。

下馬表では、バンランカー・トリーニ・ルーベセイン・ジョンソンらと肩を並べての優勝候補だった。むしろ現代のスプリント界ではこの二人の新人に土を付けられるプロは居るのだろうか、という興味のほうが強かったらしい。

アメリカや日本の代表選手は評判にならず、全く無視されているらしい。

参加17名の内、競輪代表、3選手は1勝しか出来ず、最下位グループとなってしまった。準決勝では、ニコルソンがランカーをペテルセンがトリーニを敗てしまい、決勝はアマチュアから転向したばかりの二人の間で競われた。ニコルソンは先勝して(12秒8)少しばかりペテルセンの力をみくびってしまったらしく、二戦(11秒81)、三戦(11秒61)、をペテルセンにうばわれてしまった。

ニコルソンの実力は当代一流の筈だがペテルセン(28才)の老巧さにやられてしまった。この結果はおお方の予想を裏切った事だろう。現代のスプリンターのトップレベルを荒ぼく言うならば、1000Mタイムトライアル68秒、フライング200M10秒6、フライング1000M63秒、この位の力がないと同じ土俵の勝負にはならない。

プロフェッショナルの材料 石渡クロモリチューブセット群

SPECIAL FRAME TUBE SET (All crmo steel set)

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| ●015 ALPHA 1,500g | ●GLORIES VICTORY 019 1,970g |
| ●RECORD BREAKER 017 1,740g | ●ULTRA STRONG 024 2,430g |
| ●SPEED GALLANT 022 2,220g | ●FIRST LIGHT 026 2,610g |



株式会社 石渡製作所

神奈川県川崎市川崎区大師河原4104

TEL 044-(26)-3934(代)